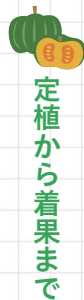


タキイ 品種大解剖!

カボチャ
ロロン編

タキイ長野研究農場 松川 祐大

ラグビーボールのような形状が特徴の「ロロン」は、なんといってもきめ細やかながらホクホクとした食感と上品な甘みが魅力。その食味のよさを最大限引き出すための栽培ポイントを解説します。ポイントをおさえて栽培された「ロロン」の味は格別で、リピートしたくなること間違いなし! ぜひ挑戦してみてください。



定植から着果まで



肥大期の管理



収穫



キュアリング

カボチャ栽培に霜は大敵ですので、定植時期は注意してください。中間地での目安は5月上旬以降が適します。「ロロン」は大葉で草勢が強いことから、元肥は一般的な西洋カボチャの栽培と比べ2割ほど減らし、基本の2本仕立てでは株間は80cm程度に余裕をもちます。着果するまでわき芽は早めに切除し、草勢を落ち着かせ、つるばけを防ぎます。株元の雌花は除去し、10節前後で着果させます。

開花後45〜50日で収穫ですが、適期は果梗部のコルク化で判断します。果実の熟度が進むにつれ、果梗部に縦、横の順に亀裂が入ってきます。収穫は亀裂が横に入るまで我慢し、完熟してから行いましょう。せっかくの「ロロン」のおいしさが損なわれてしまうので若どりは厳禁です。

果実の充実には適切な時期の追肥と、病気の防除が必要です。追肥は着果して果実が手のひらサイズになった時に、チッソ成分で10㎡当たり30gを施肥します。着果負担などで株が弱るとうどんこ病などが蔓延するので、早めの防除を心掛け収穫まで健全に株を維持します。



肥大期の管理



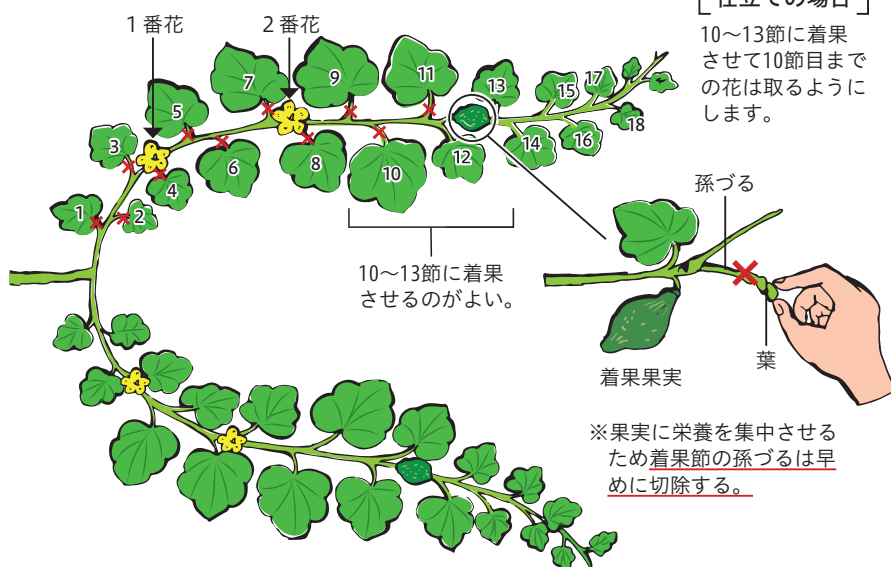
収穫



キュアリング

×=孫づるを除去

※着果までの雌花は取る

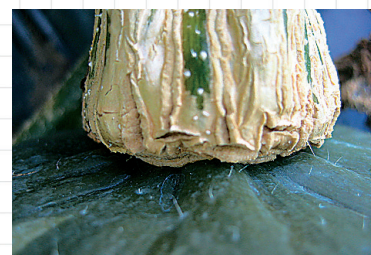


「子づる2本仕立ての場合」

10〜13節に着果させて10節目までの花は取るようにします。



↑「ロロン」は草勢が強く葉は大きめだが、着果がよく栽培は容易。交配後45日程度で収穫期を迎える。



↑収穫適期の果梗部の状態。コルク化が果実付近にも及んでいる。